史跡池上曽根遺跡の調査

▲調査区全景（北東から）

2006年12月3日

和泉市教育委員会
(財)大阪府文化財センター

池上曽根遺跡の調査と目的

池上曽根遺跡は、和泉市池上町と泉大津市曽根町にまたがる、弥生時代の集落遺跡です。大阪府南部の和泉地域を代表する巨大な集落遺跡の一つで、集落の周囲に濠を巡らせた、「環濠集落」として有名です。環濠を掘って、敵の攻撃や洪水からムラやムラ人を守りました。池上曽根遺跡では、弥生時代中期には、約６万㎡が環濠で囲われており、日本でも有数の規模を占めています。

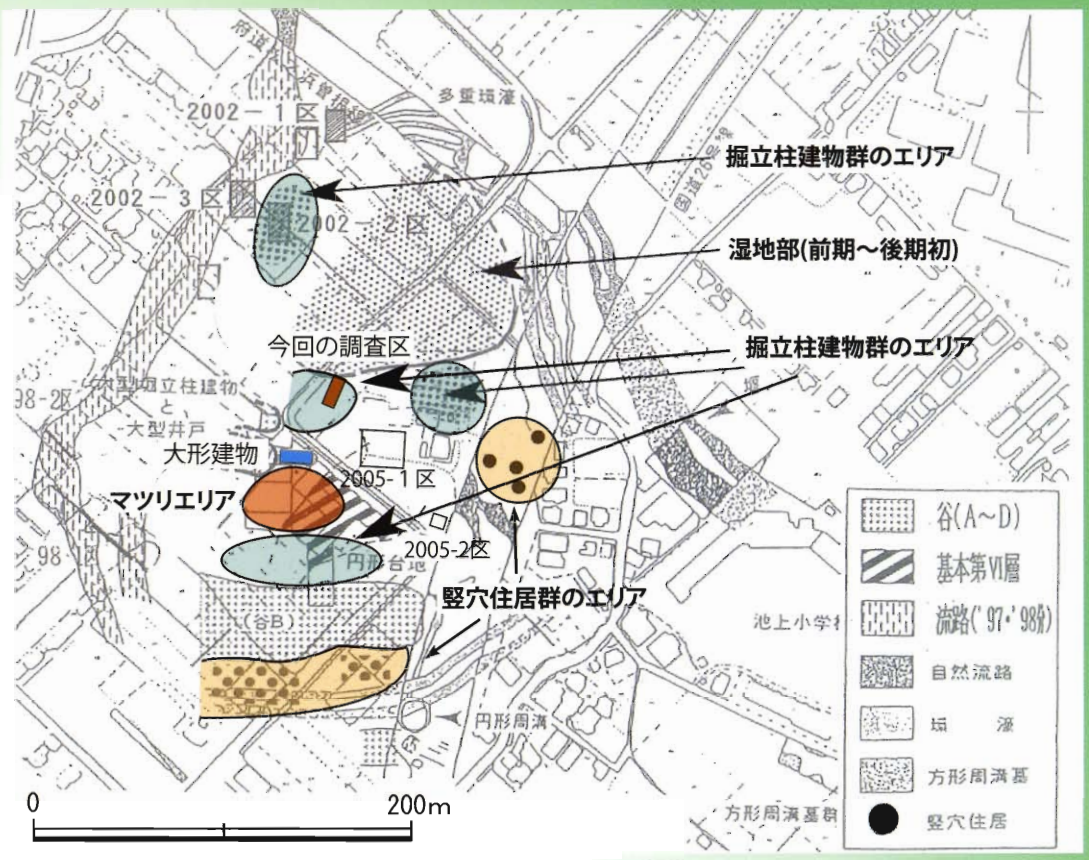
以上のように重要な遺跡なので、昭和51年（1976年）には環濠に囲まれた範囲を中心に国史跡に指定され、平成２年度（1990年）から史跡公園として整備するために発掘調査がなされています。平成６年度（1994年）の調査における、弥生時代最大級の大形掘立柱建物（以下「大形建物」と呼ぶ）と刳り貫き井戸の発見もその成果の一つです。

調査地区は、大形建物の北約35ｍの位置にあたります。集落南側の状況は、比較的わかっていて史跡公園として整備されていますが、北側の様子はあまりわかっていません。今回の調査目的は、環濠集落内部の北側の状況、特に大形建物の北隣接地の状況を明らかにし、今後の史跡整備のための基礎資料を得ることにあります。

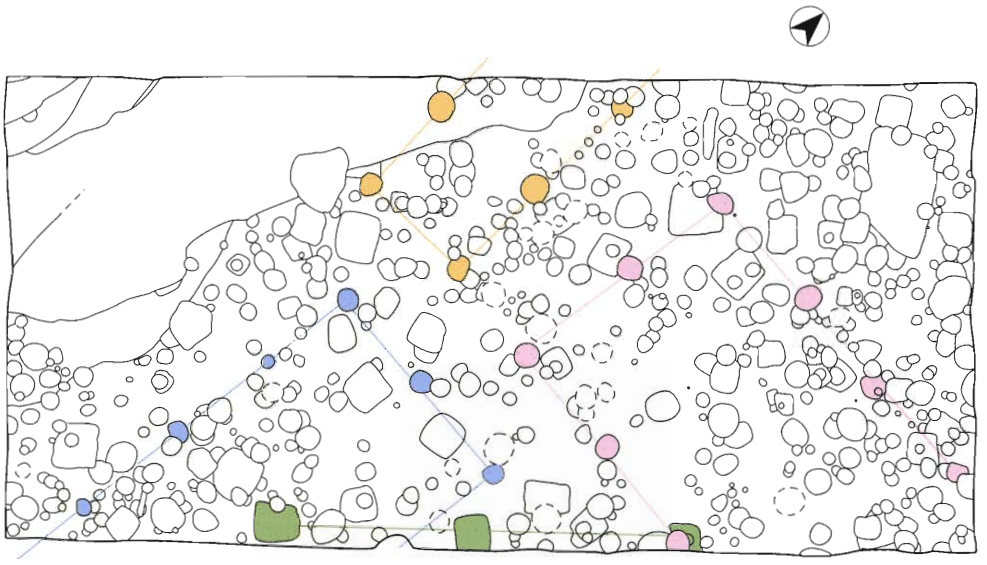
▲調査風景（南西から）
平板測量をおこなっています。

▼方形の掘方をもつ柱穴（北西から）
一辺が60～70㎝の大型のものです。

◀調査区全景（北東から）
無数の土坑やピットが重なって検出されました。



▲池上曽根遺跡建物分布模式図（藤田憲司作成原図をもとに一部改変）
大形建物を中心にその他の建物群が配置されています。



▲調査区平面図(1/150)

◀石庖丁未成品
出土状況

水晶原石出土状況▶

平成１８年度調査の成果

見学していただくのは、弥生時代中期後半の遺構面です。柱穴や若干の土坑・流路などが見つかりました。柱穴の多くは小形円形のものですが、中には大形のもの、方形のものがあり、やや大きい方形掘方の柱穴を有する掘立柱建物は、ランクの高い建物と考えられます。掘立柱建物（以下「建物」と呼ぶ）とは、地面に穴を掘り、柱を埋め込んで構築した建物です。竪穴住居は見つからず、遺構の検出状況から、掘立柱建物が建っていたエリアなのでしょう。

詳細な建物の構造と時期は検討中ですが、数棟の建物が確認できます。復元されている大形建物は、正方位に近い軸線を持って構築された建物ですが、今回の建物群にもそれに近い軸線を持って構築された一群が認められます。厳密には、両者の方向性が一致するわけではありませんが、大形建物を意識しつつ、方位をそろえて建てられたと考えられます。

特筆すべき遺物としては、柱穴の一つから水晶１点が見つかりました。水晶は、玉の材料になりますが、池上曽根遺跡での玉造りの証拠はないので、どのような背景があるのかはわかりません。水晶は非常に珍しく、貴重品として持ち込まれたと考えられます。

▲発掘された調査区と遺構　（池上曽根遺跡史跡公園協会発行2001『池上曽根物語』を改変）

史跡　池上曽根遺跡の調査　平成18年度史跡池上曽根遺跡整備事業に伴う発掘調査　現地説明会資料

編集／(財)大阪府文化財センター(〒590-0105　大阪府堺市南区竹城台３丁21番４号　TEL.072-299-8791)
発行／和泉市教育委員会(〒594-8501　大阪府和泉市府中町2丁目7番5号　TEL.0725-41-1551)・(財)大阪府文化財センター
印刷／(株)中島弘文堂印刷所

表紙題字は白橋鐘道氏揮毫